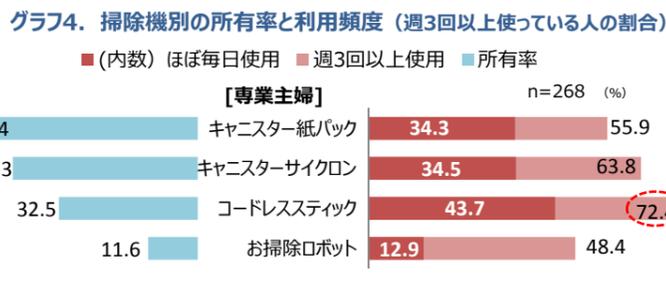
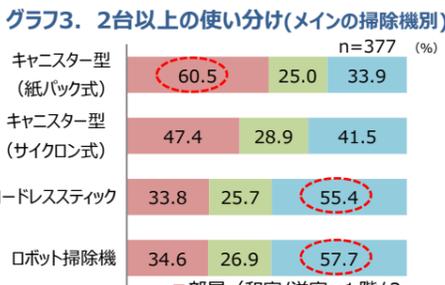
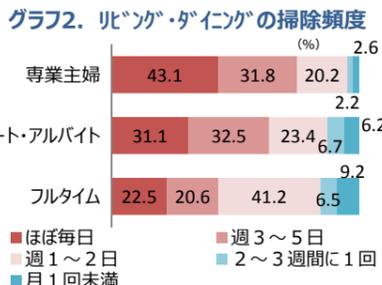
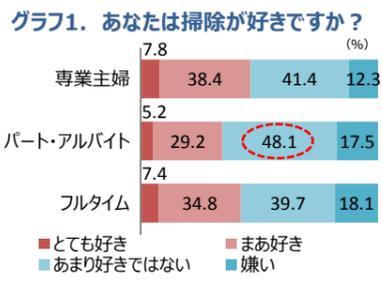


01 Woman's Trend

スキマ時間にパパッと済ませます。働き方とテクノロジーが変える、今と未来の掃除スタイル 《働き方別》本当に持っている、使っている、欲しい『掃除機』は？



ロボットやスティックなど新しいタイプの掃除機の普及が進んでいる。全国の女性に聞いた「掃除についての調査」の結果を、家事時間の使い方が異なる「働き方」別に紹介したい。

この調査では、「掃除が好き」な人は全体の41.2%。専業主婦・フルタイム勤務に比べ、パート・アルバイトは「あまり好きでない」割合が多い(グラフ1)。「日頃から家をきれいにしているか」という設問でも、パートは自己評価が低い傾向。ただしパートの掃除の頻度は、フルタイムよりも多く、専業主婦に近い(グラフ2)。

掃除機について、種類ごとの所有率を見ると、長く普及してきた紙パック式キャニスターを持っている人が最も多く(48.7%)、2位はサイクロン式キャニスター(44.9%)。全体の45.5%が掃除機を2台以上使っており、特に専業主婦は54.5%と複数持ちが多い。複数機の使い分けでは、主にキャニスターを使う人は、1階用/2階/階段用など部屋・場所別。主にコードレススティックや掃除ロボットを使う人は、平日/休日、ちょっと掃除/しっかり掃除などのタイミングで使い分ける人が多かった(グラフ3)。

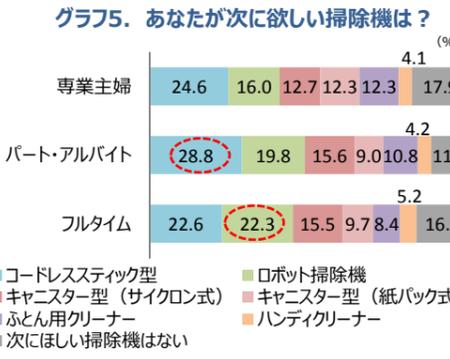
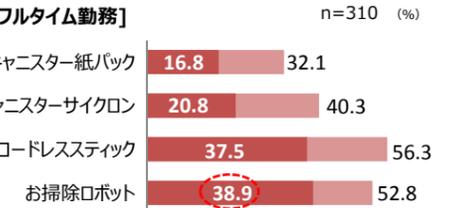
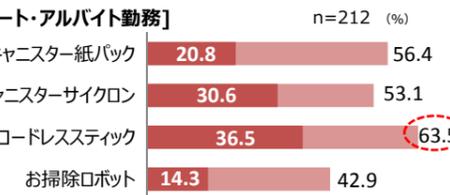
2017.08.30~09.03 リビングWeb・シティリビングWeb・あんふぁんWebのWeb調査 集計数：女性836人 平均年齢：44.4歳 内訳：専業主婦32.1% フルタイム37.1% パート・アルバイト25.4% その他5.5% (本紙のグラフでは割愛) / 20代以下6.6% 30代29.9% 40代33.4% 50代20.5% 60代以上9.7% / 既婚75.5% 独身24.5%

次に掃除機の所有率と利用頻度(グラフ4)を、働き方別に見よう。持っているのはキャニスターが多いが、利用頻度ではコードレススティックが優れていることがわかる。コードレススティックを持っている専業主婦の7割超、パートでは6割超が「週3回以上」使っている。一方、フルタイムは掃除ロボットの活用度が高い。所有率は約1割とほかと変わらないが、そのうちの38.9%が「ほぼ毎日」使っている。「次に欲しい掃除機」では、コードレススティックが最も多く、2位がロボット。コードレススティックが欲しいという声はパートに多い。フルタイムはロボットの支持が多く、1位のコードレススティックとの差はごくわずかだ(グラフ5)。

ダイソンのエンジニア、サム・ツイストさんは「掃除機の未来は、(ロボットも含め)コードレスにある」と言う。「日本のユーザーはとても忙しい。だから思い立った時、気になった時に、コード付きの煩わしさがなく、すぐ掃除ができるコードレススティックの市場性は大きい。掃除ロボットは今ではサブで使うもの、完璧ではないという認識だが、ロボットが掃除機の未来の姿であるのは間違いない。ダイソンでもAIを

活用するなど、“未来”をかなえるロボットの研究開発を進めており、数年後には発表できるのではないかと考えている。

毎日、一定の“掃除の時間”に隅々まで掃除機をかける方式から、汚れが気になった時や空いた時間にパパッと行う、効率重視の掃除へ。働く女性の増加と掃除機の新しいテクノロジーが、掃除スタイルを変えていく。掃除が「あまり好きでない」人が多いパート層は、専業主婦を経験してから仕事に戻ったことで、従来の掃除方法と、今の忙しさとの間でフラストレーションを感じているのではないかと。これは過渡期のジレンマともいえるが、その解消には、新しい掃除機を買うだけでなく、効率的な“パパッと掃除”への気持ちの切り替えが求められるだろう。(副所長・滑川恵子)



本当に持っている、使っている「掃除道具」「洗剤」「掃除代行」に関する調査データもWebで公開中

02 Working Woman's Real

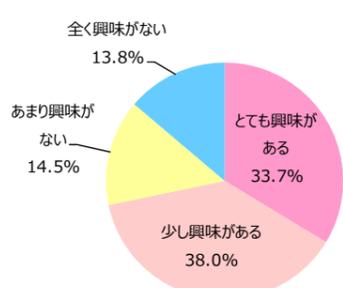
【オフィスで働く女性の副業意識】 パラレルキャリアに「興味あり」が7割 在宅ワーク、パートなどで堅実に

日本政府が働き方改革の一つとして「兼業や副業の普及拡大」を掲げる中、並行して複数のキャリアを持つ“パラレルキャリア”という働き方が注目されている。全国の働く女性への調査では、パラレルキャリアに興味がある「とてもある」「少しある」という人が約7割。その中で、すでに実践している人は2.8%、準備を始めている人は8.0%と、実際に行動に移すまでには至っていない人がほとんど。企業側の環境整備もまだまだのようで、職場で副業が認められている人は12.1%、認められていない人が52.9%。

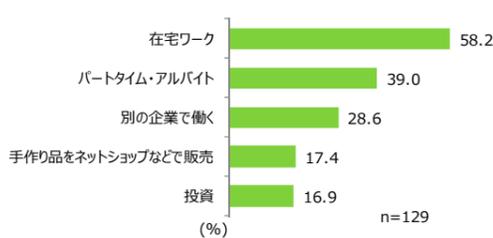
パラレルキャリアに興味がある理由は、「収入アップ」60.6%、「現在の職場で働き続けることができなくなったときの備え」43.7%、「定年後の備え」41.3%など、金銭面・生活の安定を意識した回答が上位に。してみたい副業のトップ3は「在宅ワーク」「パートタイム・アルバイト」「別の企業で働く」と、現実的に取り組みやすそうなものが多い。自己実現や趣味を生かすことなども、堅実路線が色濃い。

2017.07.26~07.30、全国の企業に勤める40代以下の女性を対象としたWeb調査。集計数：297

【勤務先で副業が認められているとしたら、パラレルキャリアに興味があるか？】



【パラレルキャリアに興味がある人に、どんな副業がしてみたいか？】 ※上位項目抜粋



03 Living Woman's Network

リビング新聞グループの女性組織紹介 ~SHUFU-1(シュフワン) 進化する主婦! 優れワザを持つ人材の宝庫

優れた主婦(主夫)のワザを持った人を応援している、リビング新聞のSHUFU-1(シュフワン)グランプリ。

2012年のスタート以来、多くのスペシャリスタ主婦たちがリビング新聞読者代表として紙面やWebで大活躍している。美容・健康、料理、趣味・特技、家事などのジャンルで、多彩なワザを持つ人材の宝庫だ。地域コミュニティや教室の主宰、書籍出版、クラフト作品販売、セミナー講師など、実にアクティブに活動しているが、家庭と自分のやりたいことをバランスよく両立させているのが特徴。

第6回を迎えた今年も、グランプリ1名、準グランプリ2名を含む9名がSHUFU-1メンバーに登録され、総勢48名となった。選考したリビング新聞編集部によると「今年2020年に向けて...」がキーワード。数年先の目標を見据えて日々、研さんを積む姿勢でグランプリを決定しました。

日々、進化している主婦たちの実力はWeb「わたしの“主婦腕”お見せします」で、確認してほしい。



第6回グランプリ 鈴木さよりさん(42歳) 出身地、房総の郷土料理「飾り巻き寿司」の魅力を広めたい、と全国で70人しかいないマスターインストラクター資格を取得。「飾り巻き寿司だけでなく、暮らしを彩る技を伝えたいと思います」 準グランプリの2人のワザも多彩。詳しくは、リビングくらしナビで

わたしの“主婦腕”お見せします
http://mrs.living.jp/shufu-1